

# 行政調査報告書

(東京都健康安全研究センター)

平成28年6月21日(火)

大阪維新の会 大阪府議会議員団

## 東京都健康安全研究センターの視察概要

日 時：平成28年6月21日（火）16：00～17：20

場 所：東京都健康安全研究センター（東京都新宿区）

参 加 者：青野剛暁、永野耕平、松浪武久、徳村さとり

※知事及び大阪市長と合同視察

### ○事業概要説明及び視察内容

昭和24年に設置された「東京都衛生研究所」が、健康安全研究センター新棟整備基本計画によって平成24年度に竣工され、今年度中に、予算総額約150億円で整備完了するもの。

主な機能は、

- 1 保健所支援機能の強化
  - ・感染症発生時に対策の中心となる保健所人材を集中的に養成
- 2 感染症対策の強化
- 3 検査体制の強化

#### ①新型インフルエンザ等相談センター

職員でローテーションを組み、インフルエンザ相談センターを設置している。

9台の電話を備え、万一、インフルエンザが大発生した際の電話相談窓口となる。

仮眠室、シャワー室も備え、発生から約一ヶ月後に、民間委託するまで、都民相談に直接、不休で応じる。

#### ②残留物質研究科

食品衛生法等に基づき、都内で流通する畜水産製品の残留農薬などを検査する。

例えば、2013年に群馬県で発生した、冷凍食品に農薬が混入されていた件について、解析、対策を打った。

液体クロマトグラフィーの性能が高く、解析までのスピード、正確性が格段に向上しているので、都民の安全を確保する対策をスピーディーに立てやすい。

対して、先般、視察した大阪府立公衆衛生研究所では、「古い機械を頑張って使っている状態」で、その差は歴然としていた。

#### ③医薬品研究科

危険ドラッグ等の実際の製品について、その構造について高度に分析している。

高額な最先端の機器が配置されていた。従前より少量のサンプルで、より高精度に物質を検知、分析できるとのこと。

#### ④ウイルス研究科

大阪府にはなく東京都にはある機能として、動物実験が紹介された。

大阪からもこちらに依頼して実験を行っている実績がある。

装置はそれほど大掛かりなものではなかったが、動物実験を担当する研究者の存在や実験用動物の飼育環境など、実験を支える機能を備えるところに大きなハードルを感じた。

### ○質疑応答

Q：東京都独自の疫学研究チームを持っているが、その他の機関と如何に連携しているか。

A：どのように連携するかはケースバイケース。

## ○まとめ

### 1 建物や設備の汎用性

対応すべき危機は刻一刻と変化する。研究所に必要なのは、未来の危機にも対応する汎用性のある設備と考える。

### 2 統合

東京都健康安全研究センターは何度も統合を繰り返し、いくつもの機関が一つになったものとのこと。良い見本。

やはり、知恵は結集してこそ危機への対応力は高まると感じた。

### 3 施設の整備、組織の統合のスケジュールについて

おそらく、施設の整備を進めると様々なネガティブな事柄を追求する動きがありそうに感じた。今のままでいいとか、二つある方がいいとか、あるいは、新たな研究所は近隣住民が納得しないとか。

しかしながら、組織の統合はメリットの方がはるかに大きい。府民の健康を守る機能強化を効果的、効率的に図っていくのが最優先と感じた。

(統合にあたり、人員や経費の削減は次の段階での検討)

以上



〈 永野耕平 撮影 〉